

12/13

学生戦線

12/13

社会主義学生同盟

市大支部機関紙

今日の学長団交(時談室)に^①総結集し医学部拒否権獲得を確認させ帝國主義的大学の機構解体の突破口を切り拓け。

① 医学部斗争の現局面は何か。

全市大の学友諸君、現在、医学部民主化斗争は重大な局面—最終局面を迎えて、大きな障害につまあたつてゐる。それは、11月28日医学部長、病院長、民主化委員会委員長の名連名で確認された「民主化綱領」は、医学部内の反動教授、他学部教授会の強固な反対意見、自民党市会団の圧力、それに学生内部の民青—全学連支持会派—声—民学同派モクラット派—の斗争破壊などにより、未だに大学警備委員会に於てそれが確認されず、全く宙に浮いた状態のまま現在に至つてゐる。このような状態は、あと一週間もすれば冬休みに入り、一日は後期試験が目前に迫つてくる、などの要因を攻めに操らんとする大学支配者の斗争を流産させんとするたくらみもなく何であらうか。我々は医学部斗争の重要性を確認し、この斗争を全学に拡大し、市大を現在全この大学はどうであるかを帝國主義的大学から「新たな」大学へ転化せよとするべからず、ここ一週間内外に医学部斗争の決着をつけなければならぬ。

② 学長団交で獲得すべきは何なるか。

緊要を要するならば、現在の局面より、今日の学長団交で獲得すべきものは、①に、学長が医学部での確認事項の支持表明とする事、②に、早急に大学警備委員会を開き、医学部向科を大学として正式に確立すること、③に、全学部全大学院に於て医学部と同費の団交を保障する事、④に、大学警備委員会と学生との大衆的団交を保障する事である。

③ 学生の拒否権獲得とは何か。

現在の困難な局面は、言うまでもなく、学生の拒否権獲得という画期的事項がつかぬ出たためである。この拒否権は現在の大学を根柢から創りなおすための必要不可欠の手段である。現在全口五〇数大学の斗争で斗われている学団斗争は、全この現在の大学、自体を完全しなければならず、単なる要求斗争、あるいは学内政策反対斗争としては斗いえない。即ち、現在の大学とは、口大世路線が表現する通りに教授の大学であり、その教授を通しての企業、政府と大学の二重化進行してあり、その矛盾がツンボさじきに置かれた我々学生、院生、無給友に集中されてゐるのである。市大の場合もその例外ではない。昨午、バクコロされ粉砕された医学部米単細菌研究所の氷山の一角であり、企業との結合は、後援会援助金を媒介に、委託研究が公然と研究室で行なわれているし、政府の支援は研究費をやるひらコレをやれという形で加えられている。現在のこの様な帝國主義的大学の科科—教授↓助教↓↓無給友↓院生↓学生—というヒエラルキーを解体させる第一歩は、青医連、院自治会、学部Cによる拒否権獲得である。このことは、医学部と同費な理工系はもとより、文系に於ても不備が成熟しており、何時でも斗い始めるという形が加えられるという。このことは既に東大斗争の最モラユイカルな部隊は院生であるという事実が証明してゐるのだ。

④ 医学部斗争の最終的勝利を確立し、全学連に波及させる為には、緊急に全学連委員会を組織せねばならぬ。全このクラスに斗争の組織をせよ。